



ERDI

スタンダード & プロシーチャー マニュアル

Part 4: リーダーシップ スタンダード

EMERGENCY RESPONSE DIVING INTERNATIONAL®

tdisdi.com

目次

1.	免責事項	1
1.1	定義	1
1.2	メンバーシップ規約	2
2.	スーパーバイザー	3
2.1	イントロダクション	3
2.2	候補生参加前条件	3
2.3	修了者に与えられる資格	3
2.4	指導できるインストラクター	3
2.5	事務手続き	3
2.6	候補生とインストラクターの人数比	4
2.7	コース構成と時間	5
2.8	必須器材	5
2.9	学科アウトライン	5
2.10	限定水域(コンファインドウォーター)アウトライン	8
2.11	オープンウォータースキル達成条件	8
2.12	認定条件	9
3.	ノンダイビングスペシャルティインストラクター	10
3.1	イントロダクション	10
3.2	修了者に与えられる資格	10
3.3	指導できるインストラクター	10
3.4	候補生とインストラクターの人数比	10
3.5	候補生参加前条件	11
3.6	コース構成と時間	11
3.7	事務手続き	11
3.8	トレーニング教材	12
3.9	必須器材	12
3.10	学科アウトライン	12

3.11	スキル達成条件と修了条件	13
3.12	コースクレジット	14
4.	ノンオープンウォーターインストラクター.....	15
4.1	イントロダクション	15
4.2	候補生参加前条件.....	15
4.3	修了者に与えられる資格	15
4.4	指導できるインストラクター.....	16
4.5	事務手続き.....	16
4.6	候補生とインストラクターの人数比.....	17
4.7	コース構成と時間.....	17
4.8	必須器材	18
4.9	学科アウトライン	18
4.10	スキル達成条件と修了条件	19
5.	ERDI インストラクター	21
5.1	イントロダクション	21
5.2	候補生参加前条件.....	21
5.3	修了者に与えられる資格	21
5.4	指導できるインストラクター.....	22
5.5	事務手続き.....	22
5.6	候補生とインストラクターの人数比.....	22
5.7	コース構成と時間.....	23
5.8	必須器材	23
5.9	学科アウトライン	23
5.10	スキル達成条件と修了条件	24
6.	ERDI インストラクタートレーナー	26
6.1	イントロダクション	26
6.2	インストラクタートレーナーポリシー	26

7.	International Training®クロスオーバーコース	28
7.1	イントロダクション	28
7.2	修了者に与えられる資格	28
7.3	指導できるインストラクター.....	28
7.4	候補生とインストラクターの人数比.....	28
7.5	候補生参加前条件.....	29
7.6	コース構成と時間.....	29
7.7	事務手続き.....	29
7.8	必須器材	30
7.9	学科アウトライン	30
7.10	スキル達成条件と修了条件	32

改訂履歴

改訂 ナンバー	日付	変更
1.0	08/01/2004	本マニュアル新規作成
6.0	11/01/2005	句読点の修正が行われました。
7.0	10/27/2006	文言の修正が行われました。
8.0	11/13/2007	本文一部修正
9.0	12/31/2009	NDSI ランクを含めるマイナー編集
11.0	01/01/2011	大規模な編集上の変更バージョン 9、10 を省略し、全バージョンの標準化
12.0	01/01/2012	マイナー編集
12.1	06/01/2012	1.1 定義を追加
13.0	01/01/2013	インストラクタートレーナーの参加前条件を変更

ERDI スタンダード & プロシージャ

Part 4: リーダーシップスタンダード

14.0	01/01/2014	変更なし
14.1	04/01/2014	6.6 ERDI IT 泳力条件をリストした新 6.6 を追加 6.7 ERDI プログラム IT ランクへのアップグレード要件を明確化
14.2	10/01/2014	4.1 ERDI ノンオープンウォーターインストラクターは誰を対象にデザインされているのかを明確化 4.2 CPROX 1st の参加前条件を AED(自動体外式除細動器)を含めたものに変更 4.5 必須教材をアップデート 5.2 参加前条件としてスーパーバイザーを削除 CPROX 1st の参加前条件を AED(自動体外式除細動器)を含めたものに変更 5.4 ERDI インストラクターコースの「指導できるインストラクター」を明確化 5.5 必須教材をアップデート
15.0	01/01/2015	変更なし
15.1	04/01/2015	変更なし
15.2	08/01/2015	2.12 認定条件：ERDI スーパーバイザー筆記テストを削除
15.3	11/01/2015	2 ページ目：アメリカ本部の情報を更新
16.0	01/01/2016	変更なし
16.2	07/01/2016	2.10 ウォーターマンシップスキルの時間達成条件の明確化 4.10.4 ウォーターマンシップスキルの時間達成条件の明確化 5.10 ウォーターマンシップスキルの時間達成条件の明確化
17.0	01/01/2017	変更なし
18.0	01/01/2018	1.1 参加前条件の定義を追加 4.1 SDI IDC/IE 要件を明確化 4.2 参加前条件に、「SDI ダイブマスター認定または同等の認定」を追加 4.3 SDI OWSDI が指導できる全てのコースの修了者に与えられる資格を追加 4.4 「SDI IT は SDI IDC を指導できる」を追加 4.9 項目 13 を新しく追加 4.10 項目 10 を IDC へ、項目 5 を IEC へ新しく追加

ERDI スタンダード & プロシージャ

Part 4: リーダーシップスタンダード

19.0	01/01/2019	CPR(心肺蘇生法)、ファーストエイド(応急手当)、酸素管理プロバイダーの認定条件を明確化 3.1.3 N-DSI が指導できるコースを明確化 書式設定の更新
0120	01/01/2020	6.ERDI インストラクタートレーナースタンダードの書き直し
0121	01/01/2021	変更なし
0221	02/01/2021	International Training@クロスオーバーコーススタンダードの追加
0122	01/01/2022	1.1 必須教材の定義を追加 2.2, 4.2, 5.2 リーダーシップレベルスタンダードのダイブログ本数要件を明確化
0122a	01/01/2022	変更なし
0123	08/25/2022	1.2 メンバーシップ規約の追加 2.2.3, 3.5.5, 4.2.6, 5.2.6 コースに含まれるファーストエイド(応急手当)、CPR(心肺蘇生法)、酸素プロバイダーの認定条件を変更し、該当する Fisrt Response コースを参照するように変更 3.7 ノンダイビングスペシャルティインストラクターコース参加前条件スペシャルティから、医師の署名済ダイバーメディカルを削除
0124	01/01/2024	変更なし

1. 免責事項

エマージェンシーレスポンスダイビングは一般的に危険な活動であり、これには十分なトレーニング、良好な体力およびこれらの活動に伴う固有のリスクに対する実務上の知識が必要とされます。このマニュアルは、資格のあるインストラクターが実施する包括的なトレーニングプログラムに取って代わるものではありません。

本書の著者、Emergency Response Diving International® (ERDI), Scuba Diving International® (SDI), Technical Diving International® (TDI), International Training® (IT) および Emergency Response Diving International® (ERDI), Scuba Diving International® (SDI), Technical Diving International® (TDI), International Training® (IT) の関係者は、ここに含まれる資料やスクーバダイビング全般、特にエマージェンシーレスポンスダイビングに関する活動から生じた事故や負傷について責任を負いません。

1.1 定義

アシスタントまたはアシスト = 自分が指導する資格がないコースを開催しているインストラクター、コースディレクターまたはインストラクタートレーナーをアシストする人。アシスタントは、追加の監督活動やスタンダードと環境が許容する範囲内でインストラクターと候補生の人数比を増やすために採用される。登録時にリストされたアシスタントは、アシストしたコースの経験クレジットが認められる。

共同開催(コーティーチ/Co-Teach)またはセカンドインストラクター = そのコースを指導できる資格を有しており、他の資格のあるインストラクターと一緒に講習するインストラクター、コースディレクターまたはインストラクタートレーナー。登録時にリストされたセカンドインストラクターは、同等のクレジットが認められる。

必須教材 = コースに必須な教材リーダーシップレベルコースの候補者は、トレーニング中およびトレーニング後に、そのコースの必須教材を全て所持していなければならない。

候補生参加前条件 = コースを開始する前に候補生が満たさなければならない条件。スタンダード内で特に記載されていない限り、これらの条件をコース中に満たすことはできない。ここにリストされている条件を、インストラクターの判断で免除することはできない。参加前条件の書面によるスタンダードの免除は、コース、ダイブサイト、およびコース参加者の特定の過去の経験に応じて、アメリカ本部トレーニング部門によって発行される場合がある。

注 : ERDI スタンダードで使用されるシリンダー容量は、製造業者の値または一般化された変換に基づいており、シリンダーの体積と使用圧力の違いによるメートル法からヤードポンド法への正確な変換ではない。メートル法のシリンダーを使用する場合は、記載されているメートル法のサイズのシリンダーを使用すること。同様に、ヤードポンド法のシリンダーを使用する場合は、記載されているヤードポンドサイズのシリンダーを使用すること。

例: 3L(18cf)

注：アップグレードとクロスオーバーを含むリーダーシップレベルの登録は、SDI/TDI/ERDI アメリカ本部が候補生の書類と資格を確認し、処理するまで完了しない。SDI/TDI/ERDI アメリカ本部から認定レベルの承認を受けるまで、該当するレベルの活動をすることはできない。その確認は、オンラインプロフィール、eメール、またはSDI/TDI/ERDI アメリカ本部からの口頭による通知で行うことができる。

1.2 メンバーシップ規約

新メンバーは、署名したメンバーシップ規約をリーダーシップレベルの登録書類とともに提出する必要がある。

2. スーパーバイザー

2.1 イントロダクション

ERDI スーパーバイザーコースの目的は、経験豊富なエマージェンシーレスポンスダイバーが、エマージェンシーレスポンスダイビングチームを監督する資格を得ることである。また、リーダーシップの資質を養うための基盤となり、ERDI インストラクタートレーニングの参加前条件としても機能する。

2.2 候補生参加前条件

最低年齢 18 歳

ERD II 認定、または同等の認定

現在有効な **Fisrt Response** 大人と子供のエマージェンシーケア認定と酸素管理プロバイダー認定、または同等の認定を取得していることを証明する書類を提出すること

公認のパブリックセーフティダイビングチームのメンバーとして、業務とトレーニングを合わせて 50 回のパブリックセーフティダイブを行ったログを提出すること。このログに数えられるのは、ダイバーがスクーバで水中に潜ったダイビングの回数。水面でのサポートダイビングはこの回数に数えられない。

医師が署名した現在有効なダイバーメディカル/参加者チェックシート

2.3 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者はエマージェンシーレスポンスダイビング活動の監督や、全てのトレーニングが NFPA1006、1561、1670 ガイドライン、または全米防火協会(NFPA)が管轄しない地域については、プロおよび/またはボランティアのパブリックセーフティおよびエマージェンシーレスポンスダイバーに適用される規制または法的要件に適合することを条件に、ERDI インストラクターをアシストすることができる

2.4 指導できるインストラクター

アクティブステータスの ERDI インストラクター

2.5 事務手続き

1. 候補生に以下の書類の必要事項を記入させる：

- a. *ERDI* 一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
- b. *ERDI* ダイバーメディカル/参加者チェックシート

- 2. 候補生にスケジュールを伝える
- 3. 候補生が必須器材を所有していることを確認する

認定：

- 1. *ERDI* コース修了後インストラクターは、*ERDI* リーダーシップ登録申請フォームを *ERDI* アメリカ本部に提出する

ERDI スーパーバイザーコースの必須教材は以下の通り：

- 1. ERD レスponsダイバーI マニュアル、または e ラーニングコース
- 2. *ERDI* スタンダード&プロシージャーマニュアル
- 3. *SDI* ダイブマスターマニュアル
- 4. 全米防火協会(NFPA)スタンダード 1006、1561、1670、または最新スタンダード

注：全米防火協会(NFPA)スタンダードは www.nfpa.org を参照

ERDI スーパーバイザーコースの推奨教材は以下の通り：

Encyclopedia of Underwater Investigations by Cpl.Robert G. Teather C.V.

2.6 候補生とインストラクターの人数比

学科：

- 1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

限定水域(コンファインドウォーター、プールに似た環境)：

- 1. *ERDI* インストラクター1名に対し候補生最大 6名(6:1)
- 2. アクティブステータスの *ERDI* スーパーバイザーがアシストする場合は、アシスト 1名につき候補生を 2名追加することができる
- 3. 複数のアクティブステータス *ERDI* スーパーバイザーがアシストする場合、*ERDI* インストラクターが限定水域(コンファインドウォーター)で指導できる候補生の最大人数は、14名

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など)：

- 1. *ERDI* インストラクター1名に対し候補生最大 6名

2. 状況に応じてインストラクターの裁量で最大定員を減らすことができる

2.7 コース構成と時間

オープンウォータートレーニング:

1. 2 ダイブ
2. 候補生は事故を想定したシナリオを 4 回監督しなければならない
3. トレーニングダイビングは深度 18m(60ft)以内
4. 全てのダイビングは日中の明るい時間帯に行わなければならない
5. 無事ダイビングが完了したら、候補生はログ付けをし、ERDI インストラクターはダイビング完了の署名をしなければならない

1.

コース構成:

1. ERDI では、候補生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

コース時間:

1. 学科とブリーフィング: 約 40 時間
2. 限定水域(コンファインドウォーター): 約 6 時間

2.8 必須器材

ERD I ダイバーの必須器材と同じ

2.9 学科アウトライン

1. Emergency Response International Training® (ERDI)と International Training®の歴史

ERDI スタンダード&プロシージャー

賠償責任、保険:

- a. リスクマネジメント
- b. 免責同意書

- c. インシデント/事故レポートの記入

製品と購入手順:

- d. 注文方法
- e. リニューアル

知識開発:

- f. プロフェッショナリズムと倫理
- g. 物理学
- h. 生理学とダイビング傷害
- i. 器材
- j. ダイブサイトの監督
- k. ダイブログとチェックリスト

特別監督手順が必要な特別アクティビティ:

- l. 限定水域(コンファインドウォーター)手順
- m. オープンウォーター手順

パブリックセーフティダイビング事故の構造:

- n. 事故要因のパニックサイクル
- o. パニック予防トレーニング
- p. よくある事故のタイプ
- q. 適正な介入

労働安全衛生庁(Occupational Safety and Health Administration, OSHA)規格

- r. CFR 29, Part 1910
- s. www.OSHA.gov

全米防火協会(National Fire Protection Association, NFPA)スタンダード:

- t. NFPA 1006:
 - i. レスキューテクニシャンプロフェッショナル資格基準
- u. NFPA 1561:
 - i. 救急サービス事故管理システム基準

v. NFPA 1670:

- i. テクニカル捜索救助事案の作業および訓練に関する基準

w. www.nfpa.org

様々な条件下でのダイバーの監督と管理:

x. インシデント管理システム(IMS)

y. NFPA 1561

z. リスクベネフィット分析

aa. コミュニケーション

bb. サーチパターン

cc. 観察、監視

他機関とのオペレーション連携:

dd. クロストレーニング(異なる機関間で訓練を行うこと)

ee. コミュニケーション

ff. 連絡係(機関間の調整役)

目撃者へのインタビューテクニック:

gg. 可能であれば、複数の目撃者を分ける

hh. 信頼関係を築く

ii. 連絡先情報を取得する

jj. 情報の妥当性を確認する

kk. 現場から離れた場所でインタビューを行う

事故者の家族への対応

ll. 情報提供を続ける

mm. 現場から離す

nn. 家族に担当者を割り当てる

oo. 適切な事故者への対応

見物人への対応

pp. 隔離する

qq. 必要に応じて利用する；情報収集

メディアへの対応：

rr. 公共情報担当官

ss. 情報はまず家族に伝えるべき

tt. 任務や危険、作業内容を正確に説明する

uu. 全ての事項について「オフレコ」ということがないようにする

vv. 報道機関との関係を友好的に保つ

2.10 限定水域(コンファインドウォーター)アウトライン

候補生は、以下のスキルを正しく実行できなければならない：

1. 800m スイム：腕を使用せず、マスク、スノーケル、フィンを使用して、16 分以内にノンストップで泳ぐ
2. 500m スイム：水泳用補助具を使用せずに、14 分以内にノンストップで泳ぐ
3. フル器材を装着したダイバーに 100m の距離を泳いでアプローチし、さらに 4 分以内に 100m ダイバー曳航する
4. サバイバルフロート：補助具なしで 15 分間最後の 2 分間は両手を水面より上に保つこと

以下のスキルのうち 2 つを、ウォーターマンシップスキル開発として ERDI インストラクターが使用することを推奨する：

1. ダイバー 3 人でウエイトベルトサポートエクササイズ：
 - a. 足がつかない深度で、3 人の候補生と一緒に、14kg(30Lbs)のウエイト付きベルトを 5 分間水面より上に持ち上げる
 - b. ベイルアウトのシミュレーションを実施する；ブラックアウトマスクを使用、リダンダントエアソースへ切り替え、プライマリーのベイルアウト & 浮上
 - c. マスクなしで 8m(25ft)水中を泳ぎ、浮上する前にマスクを回収し、装着してクリアする

2.11 オープンウォータースキル達成条件

全てのオープンウォータートレーニング中、ERDI スーパーバイザー、インストラクターまたはインストラクタートレーナーは常時同席し、水中での緊急事態に対応できるよう器材を装着して備える。

水中トレーニング中は、**NFPA1006**、**NFPA1670** のスタンダードを守らなければならないが、**NFPA** が適用されない地域では、プロフェッショナルおよび/またはボランティアのパブリックセーフティおよびエマージェンシーレスポンスダイバーに適用される規制または法的要件に従わなければならない。

候補生は、以下のエマージェンシーレスポンスダイビングスキルを正しく実行できなければならない：

1. 証拠の回収の正しい対処手順で、あらゆるサーチパターンを駆使して、溺死者を回収する
2. 証拠の回収の正しい対処手順で、あらゆるサーチパターンを駆使して、小さな搜索物を回収する
3. **NFPA1561** のスタンダードを守り、または **NFPA** が適用されない地域では、プロフェッショナルおよび/またはボランティアのパブリックセーフティおよびエマージェンシーレスポンスダイバーに適用される規制または法的要件に従い、インシデントシミュレーションの 4 つの個別のシナリオにおいて、インシデントコマンダー(現場指揮官)として、候補生は以下のことを行う：
 - a. 現場評価と安全確保
 - b. ブリーフィングとチームを配置させる
 - c. 小さな搜索物回収、大きな搜索物回収、事故者救助、そしてトラブルを起こしているプライマリーダイバーの救助を監督する
 - d. 各ダイビングの除染手順を監督する
 - e. チームにデブリーフィングする
4. 深度 **6m(20ft)** 以内のブラックウォーター(視界ゼロ/ゼロビジビリティ)または疑似ブラックウォーターで、意識不明ダイバーレスキューを成功させる能力をデモンストレーションする。それには、テザーを使用して意識不明のダイバーを発見し、そのダイバーの気道を確保したまま浮上し、**4分以内**にダイバーを **100m(330ft)** 曳航することを含む
5. 水面で、パニックダイバーに安全に近づき、救助を行う能力をデモンストレーションする

2.12 認定条件

1. ERD I または ERD II コース全体を 1 回アシストする
2. 全ての学科、限定水域、オープンウォータースキルの達成条件を満たすこと
3. 泳力評価の達成条件を満たすこと

3. ノンダイビングスペシャルティインストラクター

3.1 イントロダクション

ERDI ノンダイビングスペシャルティインストラクターコースは、パブリックセーフティダイブチームのノンダイビングメンバーに、下記のノンダイビングスペシャルティのインストラクターとして単独で安全に活動するために必要な知識を指導することを目的としている：

1. 視認検査手順(VIP)
2. ERDI テンダー
3. ERDI が提供するその他のノンダイビング Ops またはスペシャルティ。例：ユニークスペシャルティ(アメリカ本部の承認が必要)

上記のコースのいずれかのインストラクターになるには、候補生は資格のあるインストラクタートレーナーによる認定を受ける必要がある。経験に基づくアップグレードは認められない。

ノンダイビングスペシャルティインストラクターとしてクロスオーバーを希望する他の教育機関で同等の資格を持っているインストラクターは、現行のインストラクタークロスオーバー手順で申請することによりクロスオーバーできる。

3.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は該当する ERDI ノンダイビングスペシャリティコースを指導できる。

注：全ての該当スペシャルティの参加前条件と修了条件を満たし、インストラクタートレーナーにそのコースを指導する資格がある場合は、候補生は複数のスペシャルティを指導できる認定を一度に受けることができる。

3.3 指導できるインストラクター

候補生が修了後に指導することになるスペシャルティのインストラクターレベルを指導する資格を有するアクティブステータスの ERDI インストラクタートレーナー

3.4 候補生とインストラクターの人数比

学科：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

限定水域(コンファインドウォーター、プールに似た環境)：

1. ERDI インストラクタートレーナー1名に対し候補生最大 16名(16:1)

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など)：

1. ERDI インストラクタートレーナー1名に対し候補生最大 10名(10:1)

3.5 候補生参加前条件

1. 最低年齢 21 歳
2. ERDI ファシリティーと提携している
3. 修了後にインストラクターとして指導する分野のスペシャルティのユーザーレベル認定から最低 1 年の経験がある
4. 修了後に指導するスペシャルティのインストラクターレベルの参加前条件を全て満たしている
5. 現在有効な Fisrt Response 大人と子供のエマージェンシーケア認定、または同等の認定を取得していることを証明する書類を提出すること注：資格を持ったインストラクタートレーナーにより、Fisrt Response コースをインストラクターコースと組み合わせることができる。

3.6 コース構成と時間

コース全体で最低 20 時間；そのうち 15 時間は、アクティブステータスのインストラクタートレーナーの直接監督下

3.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての候補生からコース費用を徴収する
2. 候補生が必須器材を所有していることを確認する
3. 候補生にスケジュールを伝える
4. 候補生に以下の書類の必要事項を記入させる：
 - a. ERDI 一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
- 5.

コース修了後、インストラクタートレーナーは次の項目を実施すること：

1. 適切なリーダーシップ登録申請フォームを記入し、ERDI アメリカ本部へ提出する

3.8 トレーニング教材

必須教材：

1. ERDI スタンダード&プロシージャーマニュアル
2. ERDI インストラクタートレーナーマニュアル
3. SDI アシスタントインストラクターマニュアル
4. 修了後に指導するスペシャルティの最新スタンダードで必須となっている全ての教材

3.9 必須器材

修了後に候補生が指導するスペシャルティの最新スタンダード必須となっている全ての器材

3.10 学科アウトライン

インストラクタートレーナーは、これらのトピックのプレゼンテーションに役立つと思われる追加のテキストまたは教材を使用できる。

下記のトピックを説明すること：

1. ERDI スタンダード&プロシージャー

ERDI の歴史

製品と購入手順：

- a. 注文方法
- b. 講習生認定手順
- c. メンバーリニューアル
- d. 賠償責任、保険

リスクマネジメント：

- e. 免責同意書
- f. インシデント/事故レポートの作成

指導方法：

- g. 指導理論、指導方法、口頭コミュニケーション
- h. 講習準備：
 - i. 学科講習
 - ii. 限定水域(コンファインドウォーター)
 - iii. オープンウォーター
- i. トレーニング補助教材の使用
- j. 自習用教材、Knowledge Quest の活用

成功するコース販売：

- k. コース予算
- l. 講習生募集
- m. コース編成とスケジュール
- n. 小売販売

インストラクター倫理

候補生が修了後に指導する全てのスペシャルティのコース内容

3.11 スキル達成条件と修了条件

このコースの修了条件：

1. 修了後に指導予定の ERDI スペシャルティの内容で、最低 15 分間の学科プレゼンテーションを最低 3 回実施する
2. 修了後に指導予定の ERDI スペシャルティの内容で、最低 15 分間の実技プレゼンテーションを最低 2 回実施する
3. 指導予定の ERDI スペシャルティで求められている全てのスキル達成条件と修了条件を満たさなければならない
4. 講習生にエグザム(学科テスト)問題を正確に補足説明できることを示す
5. ERDI スタンダード&プロシージャーエグザムに合格する
6. 指導計画とその実行に関し、慎重かつ的確な判断力があることを示す

3.12 コースクレジット

ERDI ノンダイビングスペシャルティインストラクターコースの修了者は、再度コース全体を受けることなく、他のノンダイビングスペシャルティインストラクターへアップグレードすることができる。ただし、追加スペシャルティの参加前条件、スキル達成条件と修了条件を全て満たす必要があり、アクティブステータス且つ資格のあるインストラクタートレーナーが評価する。

4. ノンオープンウォーターインストラクター

4.1 イントロダクション

ERDI ノンオープンウォーターインストラクターコースは、公認教育機関によるレクリエーションalsクーバインストラクター資格を現在保有していない人のためのコースである。

このプログラムは、SDI インストラクターそして ERDI インストラクターとして単独で安全に活動するために必要な知識を ERDI スーパーバイザーに指導することを目的としている。このプログラムは、IDC(インストラクターデベロップメントコース)と IEC(インストラクターエバリュエーションコース)の 2 セクションで構成されている。

SDI インストラクターデベロップメントコースと SDI インストラクターエバリュエーションコースを修了することが必須であるが、本コースと組み合わせることもできる。

4.2 候補生参加前条件

1. 最低年齢 18 歳
2. 医師が署名した現在有効なダイバーメディカル/参加者チェックシート
3. ERDI ドライスーツ Ops と ERDI フルフェイスマスク Ops 認定、または同等の認定
4. ERDI スーパーバイザー認定または同等の認定、または SDI ダイブマスター認定または同等の認定
5. 100 本のダイビングログの証明を提出すること。そのうち 75 本は、オペレーションとトレーニングを合わせたパブリックセーフティダイブである必要がある。このログに数えられるのは、ダイバーがスクーバで水中に潜ったダイビングの回数。水面でのサポートダイビングはこの回数に数えられない。
6. 現在有効な Fisrt Response 大人と子供のエマージェンシーケア認定と酸素管理プロバイダー認定、または同等の認定を取得していることを証明する書類を提出すること

注：資格を持ったインストラクタートレーナーにより、Fisrt Response コースをインストラクターコースと組み合わせることができる。

4.3 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は以下のコースを指導できる：

1. ERDI テンダー
2. ERD I
3. ERD II

4. ERDI スーパーバイザーコース
5. SDI オープンウォータースクーバダイバーインストラクターが指導できる全てのコース

4.4 指導できるインストラクター

1. ERDI インストラクターデベロップメントコース(IDC) ; アクティブステータスの ERDI インストラクタートレーナー
2. ERDI インストラクターエバリュエーションコース(IEC) ; 別のアクティブステータスの ERDI インストラクタートレーナーが実施しなければならない
3. アクティブステータスの SDI コースディレクターまたは SDI インストラクタートレーナーは、SDI IDC 部分を実施することができる
4. アクティブステータスの ERDI インストラクタートレーナー2 名で、IDC と IEC の両方を一緒に実施することができる

4.5 事務手続き

事務手続き項目：

1. 候補生に以下の書類の必要事項を記入させる：
 - a. ERDI 一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書
 - b. 医師が署名した ERDI ダイバーメディカル/参加者チェックシート
2. 候補生にスケジュールを伝える
3. 候補生が必須器材を所有していることを確認する

コース修了後、インストラクタートレーナーは次の項目を実施すること：

1. 適切なリーダーシップ登録申請フォームを記入し、ERDI アメリカ本部へ提出する

ERDI インストラクターコースの必須教材は以下の通り：

1. SDI スタンダード&プロシージャー
2. SDI オープンウォーターインストラクターマニュアル
3. SDI レスキューダイバーインストラクターガイド

4. SDI レスキューダイバーシナリオスレート
5. ERDI スタンダード&プロシージャー
6. Emergency Response Diver I オペレーションマニュアルインストラクターガイド
7. 全米防火協会(NFPA)スタンダード 1006、1561、1670、または最新スタンダード

注：www.nfpa.org を参照

4.6 候補生とインストラクターの人数比

学科：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

限定水域(コンファインドウォーター、プールに似た環境)：

1. ERDI インストラクタートレーナー1 名に対し候補生最大 8 名(8:1)

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など)：

1. ERDI インストラクタートレーナー1 名に対し候補生最大 8 名(8:1)
2. 状況に応じてインストラクタートレーナーの裁量で最大定員を減らすことができる

4.7 コース構成と時間

IDC：

インストラクターレベル品質で以下のコースの全必須スキルができること：

1. ERD I
2. ERD II
3. ERDI スーパーバイザー
4. SDI オープンウォータースクーバダイバー

IDC を修了した ERDI インストラクター候補生は、6 ヶ月以内に IEC に参加すること。

IEC：

コースを修了する前に、評価を担当するインストラクタートレーナーに ERDI インストラクター申込書を提出する

コース時間：

1. ERDI IDC：約 60 時間

2. ERDI IEC : 約 10 時間

4.8 必須器材

ERD I ダイバーの必須器材と同じ

4.9 学科アウトライン

1. Emergency Response International Training® (ERDI) と International Training® の歴史

ERDI スタンダード & プロシージャ

製品と購入手順 :

- a. 注文方法
- b. メンバーリニューアル
- c. 賠償責任、保険

リスクマネジメント :

- d. 免責同意書
- e. インシデント/事故レポートの作成

指導方法 :

- f. 指導理論、指導方法、口頭コミュニケーション
- g. 講習準備
- h. 学科講習
- i. 限定水域(コンファインドウォーター)
- j. オープンウォーター
- k. トレーニング補助教材の使用
- l. エマージェンシーレスポンスダイビングスキルを教える
- m. スクーバスキルの補習を行う

ERDI プログラムを教える :

- n. コース予算

- o. 講習生募集
- p. コース編成とスケジュール

インストラクター倫理

パブリックセーフティダイビング事故の検証と分析

リスクベネフィット分析

パブリックセーフティダイビング事故の構造：

- q. 事故要因のパニックサイクル
- r. パニック予防トレーニング
- s. よくある事故のタイプ
- t. 適正な介入

労働安全衛生庁(Occupational Safety and Health Administration, OSHA)規格

全米防火協会(National Fire Protection Association, NFPA)スタンダード：

- u. NFPA 1006
- v. NFPA 1561
- w. NFPA 1670

SDI IDC の全ての必須学科内容

4.10 スキル達成条件と修了条件

IDC

ERDI インストラクターコース候補生は以下を実施しなければならない：

1. 以下を指導する：
 - a. 学科プレゼンテーションを最低 2 回
 - b. 限定水域(コンファインドウォーター)プレゼンテーションを最低 2 回
 - c. オープンウォータープレゼンテーションを最低 2 回
2. 講義マネジメントやダイビング活動において、準備、プランニング、コントロール力を示す
3. スクーバスキル評価
4. ERDI インストラクター候補生は以下を完了しなければならない：

- a. 800m スイム：腕を使用せず、マスク、スノーケル、フィンを使用して、16 分以内にノンストップで泳ぐ
 - b. 500m スイム：水泳用補助具を使用せずに、14 分以内にノンストップで泳ぐ
 - c. フル器材を装着したダイバーに 100m の距離を泳いでアプローチし、さらに 4 分以内に 100m ダイバー曳航する
 - d. サバイバルフロート：補助具なしで 15 分間最後の 2 分間は両手を水面より上に保つこと
5. テザーラインを使用し、ブラックウォーター(視界ゼロ/ゼロビジビリティ)または疑似ブラックウォーターで水中サーチを行う能力をデモンストレーションする
 6. テンダーとしてダイバーを効果的にサポートできることをデモンストレーションする
 7. 適切な浮上速度が維持され、絡まりが最小限に抑えられ、物体の真下に落下エリアが維持されるように、身体サイズの物体を適切なリギングとリフトバッグを使用して引き上げる作業を監督する能力をデモンストレーションする
 8. 深度 6m(20ft)以内のブラックウォーター(視界ゼロ/ゼロビジビリティ)または疑似ブラックウォーターで、意識不明ダイバーレスキューを成功させる能力をデモンストレーションする。それには、テザーを使用して意識不明のダイバーを発見し、そのダイバーの気道を確保したまま浮上し、4 分以内にダイバーを 100m(330ft)曳航することを含む
 9. 水面で、パニックダイバーに安全に近づき、救助を行う能力をデモンストレーションする
 10. SDI IDC の全ての必須スキル

IEC

ERDI インストラクター候補生は以下を完了しなければならない：

1. 学科プレゼンテーションを 1 回
2. 最低 1 レッスン；限定水域(コンファインドウォーター)
3. 最低 1 レッスン；オープンウォーター
4. ERDI インストラクターエグザム
5. SDI IEC の全ての達成条件

評価を担当するインストラクタートレーナーは、必須学科内容が全て説明され、スキルが実施されたことを確認しなければならない

5. ERDI インストラクター

5.1 イントロダクション

ERDI インストラクターコースは、パブリックセーフティダイバー経験を持つ現オープンウォーターインストラクター、独自のパブリックセーフティダイバースペシャリティを教えている現オープンウォーターインストラクター、その他のパブリックセーフティダイバーインストラクターを養成することを目的としている。このプログラムは、IDC(インストラクターデベロップメントコース)とIEC(インストラクターエバリュエーションコース)の2セクションで構成されている。

5.2 候補生参加前条件

1. 最低年齢 18 歳
2. 医師が署名した現在有効なダイバーメディカル/参加者チェックシート
3. ERDI ドライスーツ Ops と ERDI フルフェイスマスク Ops 認定、または同等の認定
4. SDI インストラクター認定、または同等ランク
5. 100 本のダイビングログの証明を提出すること。そのうち 75 本は、公認のパブリックセーフティダイブチームのメンバーとして参加したオペレーションとトレーニングを合わせたパブリックセーフティダイブである必要がある。このログに数えられるのは、ダイバーがスクーバで水中に潜ったダイビングの回数。水面でのサポートダイビングはこの回数に数えられない。
6. 現在有効な Fisrt Response 大人と子供のエマージェンシーケア認定と酸素管理プロバイダー認定(現地の法律で許可されている場合)、または同等の認定を取得していることを証明する書類を提出すること **注**: 資格を持ったインストラクタートレーナーにより、Fisrt Response コースをインストラクターコースと組み合わせることができる。

5.3 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は以下のコースを指導できる：

1. ERDI テンダー
2. ERD I
3. ERD II
4. ERDI スーパーバイザーコース

5.4 指導できるインストラクター

アクティブステータスの ERDI インストラクタートレーナー

5.5 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての候補生からコース費用を徴収する
2. 候補生が必須器材を所有していることを確認する
3. 候補生にスケジュールを伝える
4. 候補生に以下の書類の必要事項を記入させる：
 - a. *ERDI 一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書*
 - b. 医師が署名した *ERDI ダイバーメディカル/参加者チェックシート*
- 5.

コース修了後、インストラクタートレーナーは次の項目を実施すること：

1. 適切なリーダーシップ登録申請フォームを記入し、ERDI アメリカ本部へ提出する

ERDI インストラクターコースの必須教材は以下の通り：

1. *Emergency Response Diver I オペレーションマニュアル*
2. *ERDI スタンダード&プロシージャーマニュアル*
3. *Emergency Response Diver I オペレーションマニュアルインストラクターガイド*
4. 全米防火協会(NFPA)スタンダード 1006、1561、1670

注：www.nfpa.org を参照

5.6 候補生とインストラクターの人数比

学科：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

限定水域(コンファインドウォーター、プールに似た環境)：

1. ERDI インストラクタートレーナー1 名に対し候補生最大 8 名(8:1)

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など) :

1. ERDI インストラクタートレーナー1名に対し候補生最大 8名(8:1)
2. 状況に応じてインストラクタートレーナーの裁量で最大定員を減らすことができる

5.7 コース構成と時間

IDC :

インストラクターレベル品質で以下のコースの全必須スキルができること :

1. ERD I
2. ERD II
3. ERDI スーパーバイザー

IDC を修了した **ERDI** インストラクター候補生は、**6** ヶ月以内に **IEC** に参加すること。

IEC :

1. コースを修了する前に、評価を担当するインストラクタートレーナーに ERDI インストラクター申込書を提出する

コース時間 :

1. ERDI IDC : 約 30 時間
2. ERDI IEC : 約 6 時間

5.8 必須器材

ERD I ダイバーの必須器材と同じ

5.9 学科アウトライン

1. ERDI の歴史

ERDI スタンダード&プロシージャー :

- a. 学科アウトラインの確認

製品と購入手順 :

- b. 注文方法

c. メンバーリニューアル

d. 賠償責任、保険

リスクマネジメント：

e. 免責同意書

f. インシデント/事故レポートの作成

指導方法の確認

エマージェンシーレスポンスダイビングスキルの確認

パブリックセーフティダイビング事故の検証と分析

リスクベネフィット分析

パブリックセーフティダイビング事故の構造：

g. 事故要因のパニックサイクル

h. パニック予防トレーニング

i. よくある事故のタイプ

j. 適正な介入

労働安全衛生庁 (Occupational Safety and Health Administration, OSHA) 規格

全米防火協会 (National Fire Protection Association, NFPA) スタンダード：

k. NFPA 1006

l. NFPA 1561

m. NFPA 1670

5.10 スキル達成条件と修了条件

IDC：

ERDI インストラクターコース候補生は以下を実施しなければならない：

1. ERDI インストラクター候補生は以下を完了しなければならない：

a. 800m スイム：腕を使用せず、マスク、スノーケル、フィンを使用して、16 分以内にノンストップで泳ぐ

b. 500m スイム：水泳用補助具を使用せずに、14 分以内にノンストップで泳ぐ

- c. フル器材を装着したダイバーに 100m の距離を泳いでアプローチし、さらに 4 分以内に 100m ダイバー曳航する
 - d. サバイバルフロート：補助具なしで 15 分間最後の 2 分間は両手を水面より上に保つこと
2. テザーラインを使用し、ブラックウォーター(視界ゼロ/ゼロビジビリティ)または疑似ブラックウォーターで水中サーチを行う能力をデモンストレーションする
 3. テンダーとしてダイバーを効果的にサポートできることをデモンストレーションする
 4. 適切な浮上速度が維持され、絡まりが最小限に抑えられ、物体の真下に落下エリアが維持されるように、身体サイズの物体を適切なリギングとリフトバッグを使用して引き上げる作業を監督する能力をデモンストレーションする
 5. 深度 6m(20ft)以内のブラックウォーター(視界ゼロ/ゼロビジビリティ)または疑似ブラックウォーターで、意識不明ダイバーレスキューを成功させる能力をデモンストレーションする。それには、テザーを使用して意識不明のダイバーを発見し、そのダイバーの気道を確保したまま浮上し、4 分以内にダイバーを 100m(330ft)曳航することを含む
 6. 水面で、パニックダイバーに安全に近づき、救助を行う能力をデモンストレーションする

IEC：

ERDI インストラクター候補生は以下を完了しなければならない：

1. 学科プレゼンテーションを 1 回
2. 限定水域(コンファインドウォーター)プレゼンテーションを最低 1 回
3. オープンウォータープレゼンテーションを 1 回
4. ERDI インストラクターエグザム

評価を担当するインストラクタートレーナーは、必須学科内容が全て説明され、スキルが実施されたことを確認しなければならない

6. ERDI インストラクタートレーナー

6.1 イントロダクション

インストラクタートレーナーワークショップ(ITW)は、エバリュエーターとしてインストラクターエバリュエーションコース(IEC)を単独で開催できるよう候補生をトレーニングすることを目的としている。各コースの IT ランクを取得するには、該当するコースのアクティブステータスインストラクターであり、且つこのアウトラインに詳述されているように、最低認定数を満たしていなければならない。ERDI インストラクターが ERDI IT ランクにアップグレードするには、ITW を修了する必要がある。ITW コースの修了条件は、SDI インストラクタートレーナースタンダードに記載されている。

6.2 インストラクタートレーナーポリシー

1. インストラクタートレーナーは、International Training®アメリカ本部、およびそれぞれの居住国を管轄する地域事務局に登録する必要がある
2. インストラクタートレーナープログラムを修了後、インストラクターコースを積極的に指導し続けていれば、別のインストラクタートレーナープログラムに参加せずに、他の IT ランクにアップグレードできる
3. ERDI では、全てのコースで最低認定数が設定されており、ERDI インストラクターがそのコースのインストラクタートレーナーランクを取得する前に、最低ダイビング本数が必要なコースもある
4. インストラクタートレーナーは、自身が指導できる最も高いランクのコースを最後に指導した日から 2 年以内に 1 回以上指導しなければならない。

IT アップグレード要件は以下の通り：

ERDI レベル	必須認定数	必須ダイブ数
インストラクタートレーナー	合計 200 / ERD 50	100
閉鎖空間 Ops	10	30
ドライスーツ Ops	10	25
フルフェイスマスク Ops	10	25
船体検査 Ops	20	35
アイスダイビング Ops	25	50

氷上レスキューOps	10	該当なし
ナイト Ops	10	25
スィフトウォーターOps	20	35
小型船舶 Ops	10	該当なし
水中犯罪現場捜査 Ops	15	25
水中爆発物回収 Ops	40	50
水中脅威評価 Ops	10	35

注：特に明記されていない限り、ERDI IT ランクへのアップグレードを申請する前に、該当コースで最低 10 名の認定が必要

7. International Training® クロスオーバーコース

7.1 イントロダクション

このコースは、International Training®のプロフェッショナルランク認定- SDI、TDI、ERDI、PFI、First Response Training International® -にクロスオーバーしようとするプロフェッショナルが、International Training®と共に活動するために必要なスキルと知識を習得することを目的としている。このプログラムでは、事務手続きによって実行できるプロフェッショナルクロスオーバープログラムの最低必須条件を扱っている。ある特定のコースや教育機関、または地域によっては、クロスオーバープログラムの一環として、実技評価が必須条件となる場合もある。候補生の実技評価が必要かどうかは、トレーニング部門に確認すること。

7.2 修了者に与えられる資格

このコースを修了すると、修了者は次のことができる：

1. 承認されたランクやプログラムのトレーニングコースを開催し、認定することができる

7.3 指導できるインストラクター

1. アクティブステータスのインストラクタートレーナー、またはコースディレクター
2. International Training®承認の各教育機関担当者
3. アメリカ本部トレーニング部門

7.4 候補生とインストラクターの人数比

学科：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

限定水域(コンファインドウォーター、プールに似た環境)：

1. 講習を行うために必要な施設等が整っており、かつ、時間を十分に確保できる場合は、候補生数に制限はない

オープンウォーター(海、湖、採石場跡、泉、川、河口など)：

1. オープンウォーター評価が必須の場合、適切な評価が可能な環境が整っている限り、候補生数に制限はない

7.5 候補生参加前条件

1. International Training®承認の他教育機関プロフェッショナル資格を有すること。International Training®承認の他教育機関やコースのリストが必要な場合はトレーニング部門まで問い合わせること。
2. 品質保証(QA)の調査を現在受けていない、または過去にティーチングステータスやメンバーシップをなく奪されたことがない。該当する場合は、品質保証(QA)の内容を考察・検討するためアメリカ本部トレーニング部門まで提出すること。

7.6 コース構成と時間

水中実習；必須である場合、このコースはインストラクターの判断と必須スキルに応じて、限定水域(コンファインドウォーター)、オープンウォーター、またはその両方で実施されなければならない：

1. 水中評価が必須条件のクロスオーバープログラムの場合は、該当するコースの評価条件に従うこと。評価は、該当するレベルのインストラクタートレーナーステータスを持つアクティブステータスのインストラクタートレーナーのみ実施可能。

コース構成：

1. International Training®では、候補生の参加人数やスキルレベルに応じて、インストラクターがコースを構成することができる

コース時間：

1. 必要時間は候補生の人数とクロスオーバーするレベルによる

7.7 事務手続き

事務手続き項目：

1. 全ての候補生からコース費用を徴収する
2. 候補生が必須教材を所有していることを確認する
3. 候補生がプロフェッショナルクロスオーバーコース e ラーニングを修了しているか確認する(候補生の言語が利用可能な場合)
4. 候補生にスケジュールを伝える
5. 候補生に以下の書類の必要事項を記入させる：
 - a. 該当するクロスオーバー申込書

- b. 一般賠償責任の免責とリスク負担への同意書 - 水中評価が必須のコースの場合
- c. ERDI ダイバーメディカル/参加者チェックシート - 水中評価が必須のコースの場合

6.

コース修了後、インストラクターは次の項目を実施すること：

1. クロスオーバー申込書
2. クロスオーバーチェックリスト
3. 候補生が所属する教育機関のウェブサイトからプリントアウト(推奨)、またはプロフェッショナルCカードのコピー
4. プロフェッショナル賠償責任保険 - 該当する場合
5. プロフェッショナルクロスオーバーeラーニングコース修了のプリントアウト
6. インストラクタートレーナー評価が必要なレベルの場合、評価を行ったインストラクタートレーナーが署名したインストラクター登録申請フォーム

7.8 必須器材

水中評価が必須の場合、そのクロスオーバーするランクの必須器材

必須教材は以下の通り：

1. プロフェッショナルクロスオーバーeラーニングコースのコード(候補生の言語が利用可能な場合)
2. ダイブマスター、アシスタントインストラクター、インストラクター教材
3. クロスオーバーチェックリスト
4. 該当するクロスオーバー申込書

利用可能な推奨教材：

1. クロスオーバーコースパワーポイント

7.9 学科アウトライン

下記のトピックをコース中に説明すること：

1. 事務手続き、クロスオーバーパッケージ

International Training®の歴史：

- a. TDI
- b. SDI
- c. ERDI
- d. First Response Training International®
- e. PFI

グローバル体制：

- f. 地域事務局
- g. 地域セールスマネージャー

Technical Diving International® (TDI)：

- h. スタンダード&プロシージャー

Scuba Diving International® (SDI)：

- i. スタンダード&プロシージャー

Emergency Response Diving International® (ERDI)：

- j. スタンダード&プロシージャー

First Response Training International®：

- k. スタンダード&プロシージャー

Performance Freediving International® (PFI)：

- l. スタンダード&プロシージャー

リスクマネジメント：

- m. 免責同意書
- n. 健康上の要件
- o. 保険加入

International Training® マーケティング：

- p. マーケティングリソース
- q. コンテンツ開発

International Training® のサービスと特典：

- r. ウェブサイトツール：

- i. コーススタンダード閲覧
 - ii. プロフェッショナルレベル資格の登録とアップグレード
 - iii. 講習生認定
 - iv. メンバーリニューアル
 - v. インストラクターリソース
- s. 講習生教材の購入
 - t. 指導用補助教材

International Training®の誓い

7.10 スキル達成条件と修了条件

ある特定のクロスオーバー認定には、水中スキルやその他必須達成条件を修了する必要がある。その情報は、インストラクターコーススタンダードの「スキル達成条件と修了条件」を参照。

クロスオーバーコースの修了条件：

1. 慎重かつ的確な判断力があること、そして International Training®との活動について十分に理解していることを示す
2. アメリカ本部トレーニング部門による全書類の確認が済み、候補生がメンバーナンバーと認定証を受け取った時点でクロスオーバー完了